体育・保健体育分科会

Ⅰ　研究のあゆみ

４月１９日（水）	2023年度名教組教研オリエンテーション （2023年度名教組教育研究活動の進め方）	【 教 育 館 】
５月　２日（火）	発表テーマ報告・集約	
５月１６日（火）	第１回分科会 （指導者決定通知と研究推進について）	【 紙面開催 】
５月下旬～９月	個別に研究内容の検討	
７月２５日（火）	第２回分科会 （発表に向けてのプレゼンテーション学習会）	【 栄小 】
9月上旬	各班で市集会発表内容の検討（リハーサル）と打ち合わせ	【 各会場 】
９月１６日（土）	第７３回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

Ⅱ　研究協議の概略

「体育でどのような子どもを育てるか、自ら考え行動する子どもをどう育てるか」という大テーマのもとに、「わかる・できる・かかわることを大切にした授業づくり」「ねばり強く学ぶことをめざした教材や指導方法の工夫をした授業づくり」を追究した貴重な教育実践が、52本のリポートとして報告された。

運動領域別では、器械運動・器械・器具を使っての運動遊び（18本）、ゲーム・球技（15本）、走・跳の運動・陸上運動・陸上競技（13本）、体つくりの運動遊び（3本）、表現運動（3本）であった。

多くの実践で、「仲間とのかかわりを通して考え、試すことで技能の向上に結び付けたり、動きの高まりを実感できるようにしたりする学習活動の工夫」「自己の課題を見付けたり、課題に向き合い解決に取り組んだりするための、多様な練習の場の設定や練習方法の工夫」「運動の特性を大切にした授業づくりと教師支援」「評価活動の工夫」などを手立てとした報告がされた。ICT 機器（タブレット端末）を利活用して、効果的に評価活動に生かすことで、動きの分析や、作戦を考える姿を引き出したり、自らの動きを映像や静止画で ICT 機器に残し、課題発見に生かしたりすることで、研究のねらいに迫ろうとする報告が多く見られた。

Ⅲ　今後に残された課題

「わかる・できる・かかわることを大切にした授業づくり」では、「わかるができない」や「できるがうまくかかわれない」といった課題が上がった。さらに運動が苦手な児童生徒にとっては、ICT 機器を利活用したとしても映像としては「そうなればよい」ということは客観的に理解しているが、それが「自らの身体的な動きや感じ」とはつながっていないことがある。そこで、運動が苦手な児童生徒でも課題を解決するために豊かに対話を行い、仲間とかかわることができるようにするだけでなく、ICT 機器から得た情報や仲間からのアドバイスを練習に生かし、自らの学習を調整しながら繰り返し運動に取り組ませる必要がある。そのためには、明確な目的をもたせることや、気付きを促す発問、教師支援など、「わかる・できる・かかわる」をそれぞれどのように考え、つなげていくとよいかについて、今後も検討が必要である。

「ねばり強く学ぶことをめざした教材や指導方法の工夫をした授業づくり」では、ICT 機器の利活用により、その効果が期待される反面、振り返りの時間が長くなり、十分な運動量の確保につながらなかった点や、映像で確認しても「できた」という成功体験や「これなら自分もできる」といった有能感を最後まで感じさせることができなかった点があった。いずれも、工夫した学習の取り組ませ方を念頭に置いた上での授業づくりをしていく必要があると考える。そのためには、目指したい姿に向けて、課題や自分の状況の認識だけでなく、解決のための方法を認識させる教師支援が大切となる。また、教師として児童生徒が成功体験を得ることができる教材の吟味や、称賛を中心とした教師のフィードバック、「もっとやってみたい」「これならできそう」といった思いをもたせることができるような学習環境づくり、運動の場づくりなどについて、今後も検討が必要である。